

＜考えるたのしさ＞を伝える活動
そのスキルアップは、

6・7・8月の科学実験教室で！

皆様・ぜひご支援下さい。



■＜法円坂フェスティバル＞と＜地域科学実験教室＞

6月もかなり過密スケジュール！

6月6日（金）は、吹田市立青山台小学校1・2年生に、＜〇〇ころりん（低学年版）＞の実験をしてきました。実験アシスタントは、2班の佐藤さん・田口さん・三原さんにさせていただきました。3名とも＜SA・子ども教室＞のユニホームを着て、颯爽と活動していただきました。今回も、「子どもたちの楽しい発言と雰囲気になっコリ」でした。ありがとうございました。

6月11日（水）は、大東市深野小学校を会場に、北河内理科部会の先生を相手に講演してきました。テーマは、「小学校おける原子・分子論教育の可能性」です。いつものように独断・独善的な（調子に乗って）話になりましたが、最後は気分良く終われたの良かったと思います。授業アシスタントは、佐藤和次さんでした。帰宅してメールを見ると、＜ステキメール＞が届いていました。

音田様 ★今日の河北研の講演会での、もしも原子が見えたならば、目からうろこでした。興奮して講演会後にすぐ、先生のところに行かせていただきました。話をさせていただいた時も、ぜひ子どもたちに授業してあげてと言われてますます気持ちが高ぶりました。

ピックアップの話をした大東市の先生が、生き生きとしていたのもとても印象的でした。

シュミレーション版を購入して、子どもたちに授業を試してみたくなりました。本日はありがとうございました。 寝屋川市立M小学校 MS

6・7・8月のスケジュール

★6月14日＜法円坂子どもプラザ＞6月講座 ★21日京都大研究会 ★22日～24日吹田プラン集中検討会 ★26日＜SA・子ども教室＞実験 ★28日＜吹田子ども科学実験教室＞（光と虫めがねとエコカメラ作り） ★29日国崎クリーンセンター「ゆめほたる」（兵庫県川西市）佐藤さん実験講師・音田アシスタント。いつもと逆！皆さん、行きませんか！（7・8月は次号で！）

「いたずらはかせ」の提言 上

日本の子どもたちの学力、低い。それが背景について、子ども影りになり、学力問題についても何のために勉強する、悲観的になってしまいが、教えたらいのか、分らないが、国立教育政策研究

子供の学力低下

教える大人側に問題

以前から板倉さんは「学習意欲は社会の平等化が進むほど低下する」と指摘。高等教育を受ける人口が極めて少ない時代、学生は先駆者としての自覚を持ち、厳しい教育に耐えたが、教育が一般化した現代は、子どもが学ぶこと自体を楽しめる研究をしなければ、教育は大変な危機に立たされることを考えてきた。「教師や親は、子どもがどこで分らないか、どこで楽しくなるかが分らないから、面白い授業や教材ができない。これまでの教育を認めたままでは、いい教材はできません」

学習指導要領の範囲にとられず、「蛍光灯を電子レンジに入れる」となるか？」といった子どもたちが

所を退職後も授業研究を続ける「いたずらはかせ」と板倉聖宣さんに、独自の視点からこの問題に切り込んでもらった。

「学力低下といわれますがね」と、話し始めた板倉さんは「子どもの学力が低下する前に、大人の学力が低下しているんです。批判が大人に向かないように、子どもをあげつらっているだけです」と手厳



「教材がそろっていないのに、教育されている子どもたちに申し訳ない」と話す板倉聖宣さん。東京・高田馬場の私立「板倉研究室」。

「押しつけない研究必要」

が興味を持つ実験を行い、立てた仮説を覆して新たな認識に導く「仮説実験授業」を提唱した板倉さんならではの分析だ。

「よく分らないけれども、こういうものだ」と教えるしかない教育の現状が問題です。押し付けずに教育できるための研究が必要ですよ」

さらに「僕もきちんと考えれば、教科には飛躍があり、分らないところがありますよ。成績のいい人というのは、実は授業が進むのに合わせて、何かをうまくして答えている人ですよ」と笑った。

板倉聖宣（いたくら・きよのぶ） 1930年東京生まれ。東大大学院修了。元国立教育政策研究所物理教育研究室長。83年から教育専門誌「たのしい授業」編集代表を務め、95年に私立「板倉研究室」設立。